

閉じてから開かれるもの

宇美町立宇美南中学校3年 南里 美穂

一六九四二円。

これは、私が中学校三年間で無償配布された全教科書、二十九冊の金額だ。

四月に教科書が配られるたびに、裏表紙に書かれている、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています」という一文を私はかみ締めてきた。私が毎日使っている教科書は、税金のおかげで無償配布されているのだ。他にも、私が通う公立中学校の授業料が無償であったり、よく利用する公立の体育館が安い利用料で借りることができるのも、税金のおかげなのだというのを学んだ。

ではどうして、私達の教育に税金が使われるのだろうか。私達がたくさん学んで大人になり、しっかり働いて税金を納めることを期待している、というのが理由の一つだろう。

しかし、それだけだろうか？

そう思うようになったのは、社会の時間に、富国を目指すために学制が始まったことを習った時だ。富国を目指すなら、学校に行くより働く方が即効性があるのではないか、と思った。そのことを先生に尋ねてみると、

「長い目でみると、学ぶことが国を豊かにする。学ぶことは何より優先されるのです。」

とおっしゃった。

そこで、学ぶことが、どのようにして国を豊かにするのかを考えてみた。

明治維新以降、諸外国の文化などを学ぶことで日本は豊かになったという歴史を学習した時、私は、職場体験のことを思い出した。

私が体験した職場は、家具をデザインして製造する会社だ。家具を製造する際、たくさんの端材が出るので、これを何かに利用できないかと研究した結果、端材を肥料にして無農薬野菜を作るという結論にたどり着いたそうだ。このアイデアを思いついた時、社長は高校時代の友人に相談したそうだ。そして現在、実現しているという。

なんとなく存在する無駄なものが、美味しい野菜に生まれ変わり、地球を救うサステナブルな未来を創り出している。これは、それぞれ知識や技術を持った人と人とが繋がった結晶であると思う。人が集まればアイデアは何倍にもなり、その力は計り知れないものになるだろう。その上、アイデアを積み重ねてきた人々の心には大きな感動が生まれているはずだ。こんなに豊かなことは、他にないのではないかと私は考える。

これから私が学んだり身につけたりすることが小さいことだとしても、仲間と共有することで大きいものを生み出し、そうすることで人生を豊かなものにしてほしい、と大人は期待してくれているのではないだろうか。このことこそが、大人が私達にたくさんの税金をかけてでも学ばせてくれる理由だと思う。

これからも教科書を閉じるたびに、私は胸に刻むだろう。ここから、私達の未来は開かれる、と。